

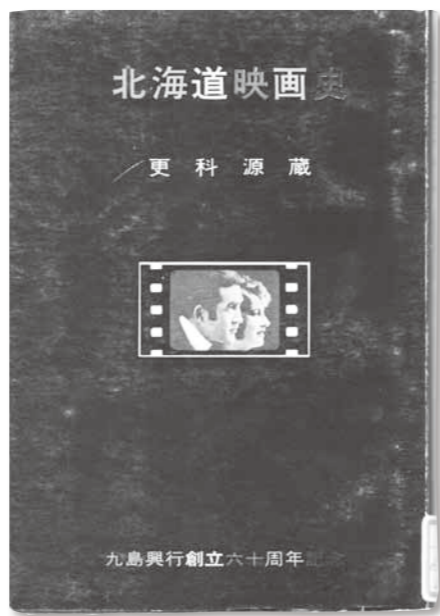


更科源蔵(さらしなげんぞう)  
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。  
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

鹿の頭  
著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



『北海道活動写真小史』1960年9月刊



『北海道映画史』1970年9月刊

## 『北海道活動写真小史』と『北海道映画史』

1960(昭和35)年、札幌市で映画館を経営する九島興行の九島勝太郎は、創立50周年を記念して、北海道の映画業界の歴史をまとめた冊子「北海道の映画史」を出版することを計画します。執筆は親しくしていた更科に依頼し、完成したのが『北海道活動写真小史』でした。

更科と九島勝太郎とのつながりは、1950(昭和25)年、更科が北海道立図書館の無給嘱託で北海道関係の資料整理をしていたところから。そこにたむろする仲間たちや館長も含めて「月に一度、100円を持って集まり、楽しい時を過ごさないか」と、文学関係者、美術家、音楽家などが集まった「狐狗(こ)会」で、2人ともそのメンバーでした。

『北海道活動写真小史』で更科は「私は所謂行政史といふ表通りの歴史よりも、庶民の生きていく裏街の方に心をひかれて来た」といいます。執筆する上では、明治・大正時代の資料が少なく、その思い出をもった人も今は少ないし、記憶といふものほど正確なものはない」としながらも、映画関係者の古老の記憶と新聞記事で確認を取りながら書き上げます。

1897(明治30)年から1937(昭和12)年までの北海道映画界の歩みが編年体でつづらられていて、この

ような形で北海道の映画業界史が編まれたのは初めてのことでした。それから10年後、九島興行が60周年を迎えるにあたって久島勝太郎は、前回の冊子のあとがきで更科が「映画の前編の終わり、おあと次週を御期待下さい」と、活動界士の口上で締めくくっていたとおり、続きを更科に依頼し、出版する計画を立てます。

更科は前回の冊子を底本にして、記述の不備や指摘があったところ、誤りのあったところを訂正したほか、1938(昭和13)年から1970(昭和45)年までを書き加えています。時代が近づけば資料も多くなると思っていたのですが、やはり資料は少なく、九島興行の社員が資料の収集に奔走していました。今回の冊子の特徴は、一般の人たちが目にする機会が少ないアイヌ文化の記録映画のことも書き加えているところです。発行は株式会社クシマから1970年9月でした。

ちなみに、九島興行の前身・遊楽座は1910(明治43)年、料亭の芸妓たちが芸を発表会をする場所として開場。義太夫や浪花節、落語などを興行していたのですが、開館後すぐに映画の上映を始め、常設館となったのは1915(大正4)年からとのこと。



## 図書館だより

中央2丁目4番1号  
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

### ☆特集展示『てしかがつ子に読まれた本2013』

平成25年度の弟子屈町児童生徒読書感想文コンクール審査結果が発表されました。(12ページ参照)  
読書感想文の題材となった作品を、特集展示コーナーで紹介しています。貸し出しも行っていますので、ぜひご利用ください。

▼期間/3月1日(土)～3月30日(日)  
▼場所/図書館内展示コーナー

### ☆インターネット予約の活用を

インターネットによる予約サービスを利用するには、申し込みが必要です。▼用意していただくもの  
●弟子屈町図書館利用者カード  
●本人確認ができるもの(免許証など)  
●個人専用のメールアドレス

▼今月の休館日/3月(月)・10日(月)・17日(月)・21日(金)(春分の日)・24日(月)・31日(月)

## 新刊案内

- 「向かい風で飛べ!」 乾 ルカ/著
  - 「古本屋ツアー・イン・ジャパン」 小山 力也/著
  - 「干支で見る性格判断」 杉原 理/著
  - 「本当にあった奇跡のサバイバル60」 タイムズ/編
  - 「経理の教科書1年生」 宇田川敏正/著
  - 「腸スッキリ菌活レシピ」 藤田絢一郎/著
  - 「女の子ママのためのかわいい!通園&通学グッズ」 赤峰 清香/著
  - 「かわいい折り紙オーナメント」 山口 真/著
  - 「武器より一冊の本をください」 ヴィヴィアナ・マツア/著
  - 「いのちのいたたく みいちゃんがお肉になる日」 デイヴィッド・ウォーカー/絵
- たくさんのお待ちはお待ちしています!

## ペテロの葬列

宮部 みゆき/著



宮部みゆきの代表作『誰か』『名もなき毒』に続く、杉村三郎シリーズ待望の第3弾。事件の真の動機の内側には、日本という国、そして人間の本性に潜む闇が隠されていた!息もつけない緊張感の中、物語は二転三転、そして驚愕(きょうがく)のラストへ!

## おすすめの最新刊

## 自然保護に大活躍 パークボランティア

川湯EMCを活動拠点としているのが、摩周・屈斜路パークボランティアの皆さんです。

EMC主催の「自然ふれあい行事」や、小・中学生を対象とした「もりのパレット探検隊!」での解説や安全管理、登山道・探勝路の整備や動植物保護活動など、多岐にわたって大活躍!町内の全小・中学生、高校生が行う外来植物駆除活動の際は、事前レクチャーの講師を務めてもらいます。

阿寒国立公園の自然を守るために欠かせない、強力な助っ人なのです。



登山道の整備なども行います



「自然」をテーマとしたイベントの会場として協力させていただくことも

て構成され、環境省川湯自然保護官のもとで、一般財団法人自然公園財団川湯支部が事務局

## EMC通信

～川湯の森から～

今年度最後はEMCの運営についてお話しします。主体は「屈斜路カルテラ自然ふれあい推進協議会」という任意団体です。

## 人と自然のつながりを大切に

を担っています。現在、EMCのスタッフは、同支部の職員と、町から業務委託を受けた㈱ツーリズムでしかがが務めています。自然公園財団は、国立・国定公園施設の維持・環境保全管理、情報提供や普及啓発、調査研究などを行っている全国組織の団体で、町内では美化清掃、摩周湖や硫黄山の駐車場管理、砂湯や和琴半島のキャンプ場管理といった業務に携わっています。ツーリズムでしかがは町民の皆さんがつくり上げた旅行社で、エコツーリズムプログラムが得意。それぞれの特長を生かし「人と自然のつながり」を大切にしたい運営を行っています。

来年度もこの枠から、12月に指定80周年を迎える阿寒国立公園の魅力を発信していきます!

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100

URL [http://www6.marimo.or.jp/k\\_emc/](http://www6.marimo.or.jp/k_emc/) 3月は9:00～16:00開館(水曜日休館)